

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

選択的AT₁受容体ブロッカー

日本薬局方 バルサルタン錠

バルサルタン錠20mg [FFP]

バルサルタン錠40mg [FFP]

バルサルタン錠80mg [FFP]

バルサルタン錠160mg [FFP]

Valsartan Tablets [FFP]

剤形	バルサルタン錠 20mg 「FFP」：フィルムコーティング錠 (割線入り) バルサルタン錠 40mg 「FFP」：フィルムコーティング錠 (割線入り) バルサルタン錠 80mg 「FFP」：フィルムコーティング錠 (割線入り) バルサルタン錠 160mg 「FFP」：フィルムコーティング錠 (割線入り)
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	バルサルタン錠 20mg 「FFP」： 1錠中に日局 バルサルタン 20mg 含有する。 バルサルタン錠 40mg 「FFP」： 1錠中に日局 バルサルタン 40mg 含有する。 バルサルタン錠 80mg 「FFP」： 1錠中に日局 バルサルタン 80mg 含有する。 バルサルタン錠 160mg 「FFP」： 1錠中に日局 バルサルタン 160mg 含有する。
一般名	和名：バルサルタン 洋名：Valsartan
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2014年 2月 14日 薬価基準収載年月日：2014年 6月 20日 発売年月日：2014年 6月 20日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：共創未来ファーマ株式会社
医薬情報担当者の 連絡先	
問い合わせ窓口	共創未来ファーマ株式会社 お客様相談室 TEL 050-3383-3846 医療関係者向けホームページ http://www.kyosomirai-p.co.jp/medical/top.html

本IFは2019年2月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき作成した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> にてご確認下さい。

I F 利用の手引きの概要

－日本病院薬剤師会－

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びに I F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において I F 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな I F 記載要領が策定された。

I F 記載要領 2008 では、I F を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-I F）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-I F が提供されることとなった。

最新版の e-I F は、(独) 医薬品医療機器総合機構ホームページ (<http://www.pmda.go.jp/>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-I F を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-I F の情報を検討する組織を設置して、個々の I F が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、I F 記載要領の一部改訂を行い I F 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提出された I F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[I F の様式]

- ①規格は A 4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[I F の作成]

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③ 添付文書の内容を補完するとの I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④ 製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤ 「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「I F 記載要領 2013」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（P D F）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[I F の発行]

- ① 「I F 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「I F 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

3. I F の利用にあたって

「I F 記載要領 2013」においては、P D F ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。電子媒体での I F については、医薬品医療機器総合機構ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I F の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I F が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師自らが整備するとともに、I F の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器総合機構ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I F を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I F は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I F があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1
II. 名称に関する項目	2
1. 販売名	2
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）	3
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3
7. CAS登録番号	3
III. 有効成分に関する項目	4
1. 物理化学的性質	4
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4
3. 有効成分の確認試験法	4
4. 有効成分の定量法	4
IV. 製剤に関する項目	5
1. 剤形	5
2. 製剤の組成	5
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	6
4. 製剤の各種条件下における安定性	6
5. 調整法及び溶解後の安定性	9
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	15
7. 溶出性	15
8. 生物学的試験法	23
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	23
10. 製剤中の有効成分の定量法	23
11. 力価	23
12. 混入する可能性のある夾雑物	24
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	24
14. その他	24
V. 治療に関する項目	25
1. 効能又は効果	25
2. 用法及び用量	25
3. 臨床成績	25
VI. 薬効薬理に関する項目	27
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	27
2. 薬理作用	27
VII. 薬物動態に関する項目	28
1. 血中濃度の推移、測定法	28
2. 薬物速度論的パラメータ	31
3. 吸収	32
4. 分布	32
5. 代謝	32
6. 排泄	32
7. トランスポーターに関する情報	33
8. 透析等による除去率	33

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	34
1. 警告内容とその理由	34
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	34
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	34
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	34
5. 慎重投与内容とその理由	34
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	34
7. 相互作用	35
8. 副作用	36
9. 高齢者への投与	38
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	38
11. 小児等への投与	38
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	38
13. 過量投与	38
14. 適用上の注意	39
15. その他の注意	39
16. その他	39
IX. 非臨床試験に関する項目	40
1. 薬理試験	40
2. 毒性試験	40
X. 管理的事項に関する項目	41
1. 規制区分	41
2. 有効期間又は使用期限	41
3. 貯法・保存条件	41
4. 薬剤取扱い上の注意点	41
5. 承認条件等	41
6. 包装	41
7. 容器の材質	41
8. 同一成分・同効薬	41
9. 国際誕生年月日	42
10. 製造・販売承認年月日及び承認番号	42
11. 薬価基準収載年月日	42
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	42
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	42
14. 再審査期間	42
15. 投与期間制限医薬品に関する情報	42
16. 各種コード	42
17. 保険給付上の注意	43
X I. 文献	44
1. 引用文献	44
2. その他の参考文献	44
X II. 参考資料	45
1. 主な外国での発売状況	45
2. 海外における臨床支援情報	45
X III. 備考	46
その他の関連資料	46

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

バルサルタンは、選択的 AT₁ 受容体ブロッカーであり、本邦では 2000 年に上市されている。バルサルタン錠 20mg 「FFP」・バルサルタン錠 40mg 「FFP」及びバルサルタン錠 80mg 「FFP」・バルサルタン錠 160mg 「FFP」は富士フイルムファーマ株式会社が後発医薬品として開発を企画し、薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2014 年 2 月に承認を得て、2014 年 6 月より製造・販売を行っている。2019 年 2 月より共創未来ファーマ株式会社が製造販売承認を承継し、製造・販売を行っている。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、AT₁ 受容体に選択性が高いアンジオテンシン II 受容体拮抗薬（ARB）である。
- (2) 本剤は、1 日 1 回投与で降圧効果が得られる。
- (3) 視認性を高めるために、錠剤の両面に製品名を印刷している。
- (4) 重大な副作用として、血管浮腫、肝炎、腎不全、高カリウム血症、ショック、失神、意識消失、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、間質性肺炎、低血糖、横紋筋融解症、中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis: TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、多形紅斑、天疱瘡、類天疱瘡が現れることがある（頻度不明）。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

バルサルタン錠 20mg 「FFP」
バルサルタン錠 40mg 「FFP」
バルサルタン錠 80mg 「FFP」
バルサルタン錠 160mg 「FFP」

(2) 洋名

Valsartan Tablets 20mg 「FFP」
Valsartan Tablets 40mg 「FFP」
Valsartan Tablets 80mg 「FFP」
Valsartan Tablets 160mg 「FFP」

(3) 名称の由来

一般名＋剤形＋規格（含量）＋「会社屋号略称」
薬食審査発第 0922001 号（平成 17 年 9 月 22 日）に基づく

2. 一般名

(1) 和名（命名法）

バルサルタン（日局、JAN）

(2) 洋名（命名法）

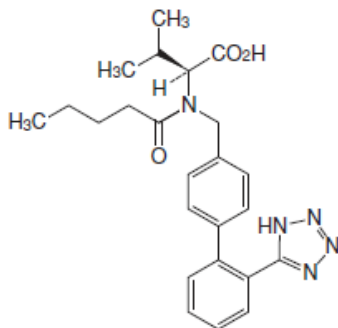
Valsartan（日局、JAN）

(3) ステム

アンジオテンシン II 受容体拮抗薬：-sartan

3. 構造式又は示性式

構造式：



4. 分子式及び分子量

分子式：C₂₄H₂₉N₅O₃

分子量：435.52

II. 名称に関する項目

5. 化学名（命名法）

(2*S*)-3-Methyl-2-(*N*-{[2'-(1*H*-tetrazol-5-yl)biphenyl-4-yl]methyl}pentanamido)butanoic acid

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当資料なし

7. CAS 登録番号

CAS-137862-53-4

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の粉末である。

(2) 溶解性

メタノール又はエタノール (99.5) に極めて溶けやすく、水にほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

(1) 各種条件下における安定性

該当資料なし

(2) 強制分解による生成物

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

1) 紫外可視吸光度測定法

2) 赤外吸収スペクトル測定法（臭化カリウム錠剤法）













4. 有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

	色・剤形	外形			サイズ		
		表面	裏面	側面	直径 (mm)	重量 (mg)	厚さ (mm)
バルサルタン錠 20mg 「FFP」	淡黄色の割線入りのフィルムコーティング錠				約 6.1	約 61.5	約 2.4
バルサルタン錠 40mg 「FFP」	白色の割線入りのフィルムコーティング錠				約 7.1	約 121	約 3.4
バルサルタン錠 80mg 「FFP」	白色の割線入りのフィルムコーティング錠				約 8.6	約 240	約 4.4
バルサルタン錠 160mg 「FFP」	白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠				約 15.5 × 約 6.8	約 476	約 5.6

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

該当しない

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

バルサルタン錠 20mg 「FFP」 : 1 錠中にバルサルタン 20mg 含有する。

バルサルタン錠 40mg 「FFP」 : 1 錠中にバルサルタン 40mg 含有する。

バルサルタン錠 80mg 「FFP」 : 1 錠中にバルサルタン 80mg 含有する。

バルサルタン錠 160mg 「FFP」 : 1 錠中にバルサルタン 160mg 含有する。

(2) 添加物

バルサルタン錠 20mg 「FFP」 :

軽質無水ケイ酸、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、タルク、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、黄色三二酸化鉄、カルナウバロウ

バルサルタン錠 40mg 「FFP」 :

IV. 製剤に関する項目

軽質無水ケイ酸、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、タルク、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ

バルサルタン錠 80mg 「FFP」:

軽質無水ケイ酸、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、タルク、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ

バルサルタン錠 160mg 「FFP」:

軽質無水ケイ酸、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、タルク、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

●バルサルタン錠 20mg 「FFP」

バルサルタン錠 20mg 「FFP」は、最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において 3 年間安定であることが推測された。

<加速試験>

試験条件：最終包装製品の状態で、40℃、75%R.H.

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月	
				開始時	6箇月後
加速試験	40℃、 75%R.H.	PTP包装	性状 淡黄色の割線入りのフィルム コーティング錠	適合	適合
			確認試験 ※1 紫外可視吸光度測定法	適合	適合
			製剤均一性 (含量均一性試験) 判定値：15.0%を超えない	3.9～7.3%	3.3～8.4%
			溶出性 パドル法 50回転、 試験液 水 30分間の溶出率が75%以上	94～99%	94～98%
			定量試験 バルサルタン 95.0～105.0%	98.3～ 99.8%	98.1～ 101.3%

※1 規格：含量均一性試験で得た試料溶液及び標準溶液につき、波長 220～350nm の吸収スペクトルを測定し、両者のスペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

IV. 製剤に関する項目

＜無包装状態における安定性試験＞（参考資料）

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
温度	40±2℃	褐色ガラス瓶 (密栓)	性状 淡黄色の割線入りの フィルムコーティング錠	淡黄色の割線 入りのフィル ムコーティ ング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、75%以上、() 内：平均値	94~102% (99)	90~97% (94)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	97.7%	95.4%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.06%
				類縁物質	総類縁：0.06% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.13% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)			5.0	6.2		

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
湿度	25±2℃、 75±5% R.H	褐色ガラス瓶 (開栓)	性状 淡黄色の割線入りの フィルムコーティング錠	淡黄色の割線 入りのフィル ムコーティ ング錠	淡黄色の割線 入りのフィル ムコーティ ング錠(規格内の 錠剤の膨潤有 り)	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、75%以上、() 内：平均値	94~102% (99)	92~99% (95)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	97.7%	99.2%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.04%
				類縁物質	総類縁：0.06% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.11% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)			5.0	4.6		

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

IV. 製剤に関する項目

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	120万lux・hr	
光	1000lux/hr ×24時間/ 日照射、 25°C±2°C	無色ガラス瓶 (密栓)	性状 淡黄色の割線入りの フィルムコーティング錠	淡黄色の割線 入りのフィル ムコーティ ング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、75%以上、() 内：平均値	94~102% (99)	93~105% (98)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	97.7%	96.6	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.04%
				類縁物質	総類縁：0.06% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.09% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	5.0	4.5				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

●バルサルタン錠 40mg 「FFP」

バルサルタン錠 40mg 「FFP」は、最終包装製品を用いた加速試験（40°C、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。

<加速試験>

試験条件：最終包装製品の状態で、40°C、75%R.H.

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月	
				開始時	6箇月後
加速試験	40°C、 75%R.H.	PTP包装	性状 白色の割線入りのフィルム コーティング錠	適合	適合
			確認試験 ※1 紫外可視吸光度測定法	適合	適合
			製剤均一性 (含量均一性試験) 判定値：15.0%を超えない	3.2~5.4%	2.2~6.7%
			溶出性 パドル法 50回転、 試験液 水 30分間の溶出率が75%以上	96~99%	95~98%
			定量試験 バルサルタン 95.0~105.0%	99.0~ 100.0%	100.9~ 101.3%

※1 規格：含量均一性試験で得た試料溶液及び標準溶液につき、波長 220~350nm の吸収スペクトルを測定し、両者のスペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

IV. 製剤に関する項目

試験条件：最終包装製品の状態で、40°C、75%R.H.

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月	
				開始時	6箇月後
加速試験	40°C、 75%R.H.	バラ包装	性状 白色の割線入りのフィルム コーティング錠	適合	適合
			確認試験 ※1 紫外可視吸光度測定法	適合	適合
			製剤均一性 (含量均一性試験) 判定値：15.0%を超えない	3.7~6.3%	2.7~5.8%
			溶出性 パドル法 50回転、 試験液 水 30分間の溶出率が75%以上	95~100%	94~97%
			定量試験 バルサルタン 95.0~105.0%	99.2~ 100.3%	99.8~ 101.7%

※1 規格：含量均一性試験で得た試料溶液及び標準溶液につき、波長 220~350nm の吸収スペクトルを測定し、両者のスペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

<無包装状態における安定性試験> (参考資料)

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
温度	40±2°C	褐色ガラス瓶 (密栓)	性状 白色の割線入りの フィルムコーティング錠	白色の割線入りの フィルムコーティング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、75%以上、() 内：平均値	96~98% (97)	95~98% (97)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	97.5%	97.5%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.07%
				類縁物質	総類縁：0.07% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.13% 個々最大： 0.04%
			硬度 (kg重)	7.6	8.9	

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

IV. 製剤に関する項目

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
湿度	25±2℃、 75±5% R.H	褐色ガラス瓶 (開栓)	性状 白色の割線入りの フィルムコーティング錠	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	白色の割線入りのフィルムコーティング錠(規格内の錠剤の膨潤有り)	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、75%以上、()内：平均値	96~98% (97)	91~96% (94)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	97.5%	99.1%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.05%
				類縁物質	総類縁：0.07% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.11% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	7.6	5.8				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベツセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	120万lux・hr	
光	1000lux/hr ×24時間/ 日照射、 25℃±2℃	無色ガラス瓶 (密栓)	性状 白色の割線入りの フィルムコーティング錠	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、75%以上、()内：平均値	96~98% (97)	96~98% (97)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	97.5%	98.6%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.04%
				類縁物質	総類縁：0.07% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.14% 個々最大： 0.07%
硬度 (kg重)	7.6	6.7				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベツセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

●バルサルタン錠 80mg 「FFP」

バルサルタン錠 80mg 「FFP」は、最終包装製品を用いた加速試験 (40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月) の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。

<加速試験>

IV. 製剤に関する項目

試験条件：最終包装製品の状態で、40℃、75%R.H.

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月	
				開始時	6箇月後
加速試験	40℃、 75%R.H.	PTP包装	性状 白色の割線入りフィルムコーティング錠	適合	適合
			確認試験 ※1 紫外可視吸光度測定法	適合	適合
			製剤均一性 (含量均一性試験) 判定値：15.0%を超えない	1.6～3.8%	1.6～4.5%
			溶出性 パドル法 50回転、 試験液 水 30分間の溶出率が80%以上	91～94%	90～93%
			定量試験 バルサルタン 95.0～105.0%	99.3～ 99.6%	98.6～98.8%

※1 規格：含量均一性試験で得た試料溶液及び標準溶液につき、波長 220～350nm の吸収スペクトルを測定し、両者のスペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

<無包装状態における安定性試験> (参考資料)

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
温度	40±2℃	褐色ガラス瓶 (密栓)	性状 白色の割線入りの フィルムコーティング錠	白色の割線入りの フィルムコーティング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、80%以上、() 内：平均値	92～95% (94)	93～98% (95)	
			定量法 バルサルタン 95.0～105.0%	98.0%	98.3%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.05%
				類縁物質	総類縁：0.08% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.12% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	9.2	10.2				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

IV. 製剤に関する項目

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
湿度	25±2℃、 75±5% R.H	褐色ガラス瓶 (開栓)	性状 白色の割線入りの フィルムコーティング錠	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	白色の割線入りのフィルムコーティング錠(規格内の錠剤の膨潤有り)	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、80%以上、()内：平均値	92~95% (94)	92~96% (93)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	98.0%	98.8%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.04%
				類縁物質	総類縁：0.08% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.08% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	9.2	7.9				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	120万lux・hr	
光	1000lux/hr ×24時間/ 日照射、 25℃±2℃	無色ガラス瓶 (密栓)	性状 白色の割線入りの フィルムコーティング錠	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 30分、80%以上、()内：平均値	92~95% (94)	94~97% (95)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	98.0%	99.0%	
			純度試験	光学異性体	0.04%	0.04%
				類縁物質	総類縁：0.08% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.10% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	9.2	8.6				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

●バルサルタン錠 160mg 「FFP」

バルサルタン錠 160mg 「FFP」は、最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。

IV. 製剤に関する項目

＜加速試験＞

試験条件：最終包装製品の状態で、40℃、75%R.H.

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月	
				開始時	6箇月後
加速試験	40℃、 75%R.H.	PTP包装	性状 白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	適合	適合
			確認試験 ※1 紫外可視吸光度測定法	適合	適合
			製剤均一性 (含量均一性試験) 判定値：15.0%を超えない	1.6～3.7%	1.9～4.2%
			溶出性 パドル法 50回転、 試験液 水 45分間の溶出率が75%以上	85～88%	90～91%
			定量試験 バルサルタン 95.0～105.0%	98.1～ 99.8%	99.2～99.6%

※1 規格：含量均一性試験で得た試料溶液及び標準溶液につき、波長 220～350nm の吸収スペクトルを測定し、両者のスペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

＜無包装状態における安定性試験＞（参考資料）

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
温度	40±2℃	褐色ガラス瓶 (密栓)	性状 白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 45分、75%以上、() 内：平均値	91～93% (92)	92～93% (93)	
			定量法 バルサルタン 95.0～105.0%	98.7%	99.8%	
			純度試験	光学異性体	0.03%	0.06%
				類縁物質	総類縁：0.07% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.14% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	13.8	15.4				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

IV. 製剤に関する項目

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	3箇月後	
湿度	25±2℃、 75±5% R.H	褐色ガラス瓶 (開栓)	性状 白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠(規格内の錠剤の膨潤有り)	
			溶出性 試験液 水、50回転 45分、75%以上、() 内：平均値	91~93% (92)	91~93% (92)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	98.7%	100.2%	
			純度試験	光学異性体	0.03%	0.04%
				類縁物質	総類縁：0.07% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.12% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	13.8	10.0				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

試験方法	保存条件	保存状態	試験項目	経過年月		
				開始時	120万lux・hr	
光	1000lux/hr ×24時間/ 日照射、 25℃±2℃	無色ガラス瓶 (密栓)	性状 白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	白色の長楕円形をした割線入りのフィルムコーティング錠	変化なし	
			溶出性 試験液 水、50回転 45分、75%以上、() 内：平均値	91~93% (92)	91~93% (92)	
			定量法 バルサルタン 95.0~105.0%	98.7%	99.5%	
			純度試験	光学異性体	0.03%	0.05%
				類縁物質	総類縁：0.07% 個々最大： 0.03%	総類縁：0.09% 個々最大： 0.04%
硬度 (kg重)	13.8	13.6				

性状：n=1、溶出性：n=6 ベッセル、定量法：n=1、純度試験：n=1、硬度：n=10

IV. 製剤に関する項目

5. 調整法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性²⁾

●バルサルタン錠 20mg 「FFP」

(1)バルサルタン錠 20mg 「FFP」 の公的溶出規格への適合

バルサルタン錠 20mg 「FFP」 は、日本薬局方医薬品各条に定められた溶出規格（水 50rpm で 30 分間の溶出率は 75%以上）に適合していることが確認されている。

(2)バルサルタン錠 20mg 「FFP」 の溶出挙動における類似性

バルサルタン錠 20mg 「FFP」 とバルサルタン錠 40mg 「FFP」 の溶出挙動の類似性を検討するため、溶出試験を実施した。

試験製剤：バルサルタン錠 20mg 「FFP」

標準製剤：バルサルタン錠 40mg 「FFP」

なお、標準製剤は同時申請品目であり、ヒト試験において先発医薬品と生物学的に同等であることが判断された製剤である。

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号 後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正（1）後発医薬品の生物学的同等性ガイドライン及び（2）含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン

試験方法：「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」

試験条件：

試験法：溶出試験法（パドル法）

試験回数：12 ベッセル

試験液：900mL、37±0.5°C

pH1.2：日局「溶出試験第 1 液」

pH3.0：薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8：日局「溶出試験第 2 液」

測定方法：液体クロマトグラフィー

回転数：50 回転（pH1.2、pH3.0、pH6.8、水）、100 回転（pH1.2）

1)平均溶出率

ガイドラインの判定基準のうち、次の基準に従って類似性を判定した。

<判定基準>

pH1.2（50rpm）

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 50 以上である。

pH3.0（50rpm）

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 50 以上である。

pH6.8（50rpm）

試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にある。

水（50rpm）

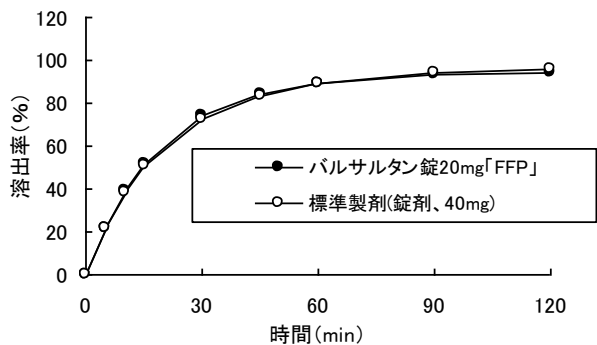
IV. 製剤に関する項目

試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 10\%$ の範囲にある。

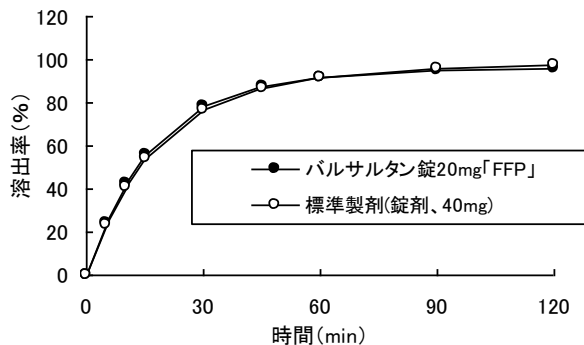
pH1.2 (100rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 10\%$ の範囲にあるか、又は f_2 関数の値が50以上である

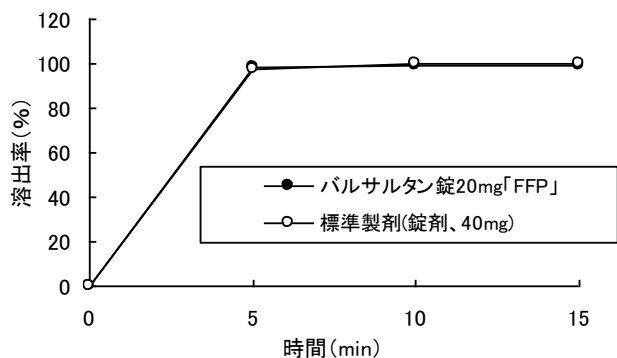
【pH1.2、50rpm】



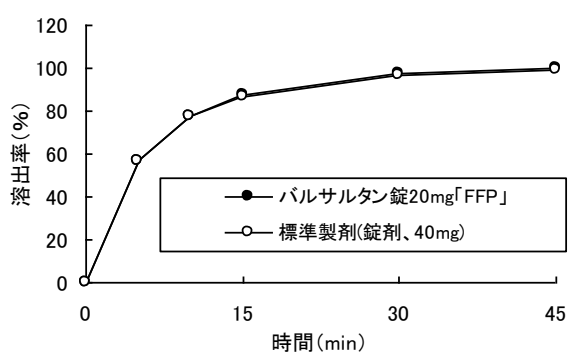
【pH3.0、50rpm】



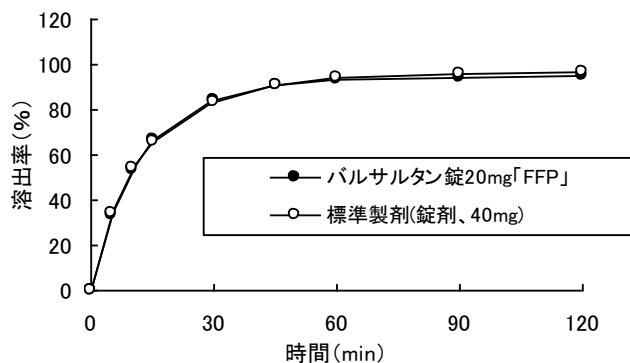
【pH6.8、50rpm】



【水、50rpm】



【pH1.2、100rpm】



表：溶出挙動における類似性 (試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較)

試験条件			平均溶出率%			判定
回転数	試験液	採取時間	標準製剤 (錠剤、40mg)	バルサルタン錠 20mg「FFP」	差	
50rpm	pH1.2	10分	38.3	39.1	0.8	適合
		45分	83.2	84.5	1.3	
	pH3.0	10分	41.2	42.5	1.3	適合

IV. 製剤に関する項目

		45分	86.6	87.5	0.9	
	pH6.8	15分	99.9	99.1	-0.8	適合
	水	15分	86.8	87.9	1.1	適合
100rpm	pH1.2	5分 30分	34.5 83.6	33.0 84.5	-1.5 0.9	適合

2)個々の溶出率

表：最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率

試験条件			バルサルタン錠20mg 「FFP」 の平均溶出率%	個々の溶出率の 最小値 及び最大値%		判定
回転数	試験液	採取時間				
50rpm	pH1.2	45分	84.5	82.7	86.5	適合
	pH3.0	45分	87.5	82.9	90.3	適合
	pH6.8	15分	99.1	97.2	101.3	適合
	水	15分	87.9	85.0	89.7	適合
100rpm	pH1.2	30分	84.5	79.0	87.2	適合

試験製剤の個々の溶出率は試験製剤の平均溶出率の±15%の範囲内であった。

上記1)及び2)の両基準を満たしていたため、標準製剤と試験製剤の溶出率は同等であると判断された。

結論

「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に従い、バルサルタン錠 20mg 「FFP」と標準製剤の類似性を検討するために試験を行った結果、5条件全てにおいて基準に適合したため、両製剤の溶出挙動は類似であると判断された。

●バルサルタン錠 40mg 「FFP」の溶出挙動における類似性

(1)バルサルタン錠 40mg 「FFP」の公的溶出規格への適合

バルサルタン錠 40mg 「FFP」は、日本薬局方医薬品各条に定められた溶出規格（水 50rpm で 30 分間の溶出率は 75%以上）に適合していることが確認されている。

(2)バルサルタン錠 40mg 「FFP」の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号

試験方法：溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験製剤：バルサルタン錠 40mg 「FFP」

標準製剤：バルサルタン製剤 40mg

試験法：溶出試験法（パドル法）

試験回数：12 ベッセル

試験液：900mL、37±0.5℃

pH1.2：日局「溶出試験第1液」

pH3.0：薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8：日局「溶出試験第2液」

IV. 製剤に関する項目

測定方法：液体クロマトグラフィー

回転数：50回転 (pH1.2、pH3.0、pH6.8、水)、100回転 (pH1.2)

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って類似性を判定した。

pH1.2 (50rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。

pH3.0 (50rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。

pH6.8 (50rpm)

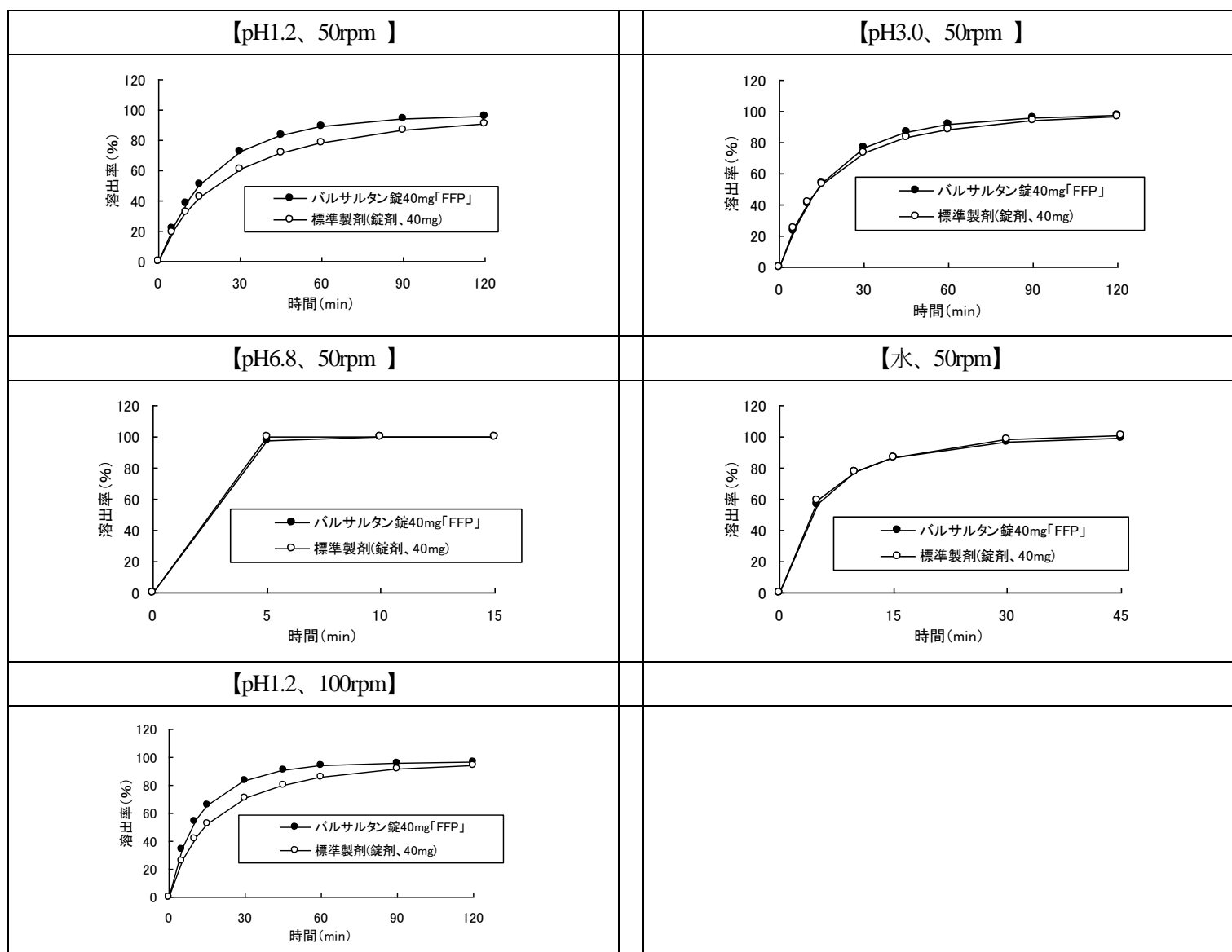
試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

水 (50rpm)

試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

pH1.2 (100rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。



表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			平均溶出率%			判定
回転数	試験液	採取時間	標準製剤 (錠剤、40mg)	バルサルタン 錠40mg「FFP」	差	
50rpm	pH1.2	15分	42.8	50.7	7.9	適合
		90分	86.5	94.1	7.6	
	pH3.0	10分	41.9	41.2	-0.7	適合
		45分	83.1	86.6	3.5	
pH6.8	15分	100.2	99.9	-0.3	適合	
	水	15分	87.0	86.8	-0.2	適合
100rpm	pH1.2	10分	41.8	53.8	12.0	適合
		60分	85.6	93.9	8.3	

結論

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインに従い、バルサルタン錠 40mg「FFP」と標準製剤の類似性を検討するために試験を行った結果、5 条件全てにおいて基準に適合したため、両製剤の溶出挙動は類似であると判断された。

●バルサルタン錠 80mg「FFP」の溶出挙動における類似性

(1)バルサルタン錠 80mg「FFP」の公的溶出規格への適合

バルサルタン錠 80mg「FFP」は、日本薬局方医薬品各条に定められた溶出規格（水 50rpm で 30 分間の溶出率は 80%以上）に適合していることが確認されている。

(2)バルサルタン錠 80mg「FFP」の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号

試験方法：溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験製剤：バルサルタン錠 80mg「FFP」

標準製剤：バルサルタン製剤 80mg

試験法：溶出試験法（パドル法）

試験回数：12 ベッセル

試験液：900mL、37±0.5℃

pH1.2：日局「溶出試験第 1 液」

pH3.0：薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8：日局「溶出試験第 2 液」

測定方法：液体クロマトグラフィー

回転数：50 回転（pH1.2、pH3.0、pH6.8、水）、100 回転（pH3.0）

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の基準に従って類似性を判定した。

<判定基準>

pH1.2（50rpm）

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±12%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 46 以上である。

pH3.0（50rpm）

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。

pH6.8（50rpm）

IV. 製剤に関する項目

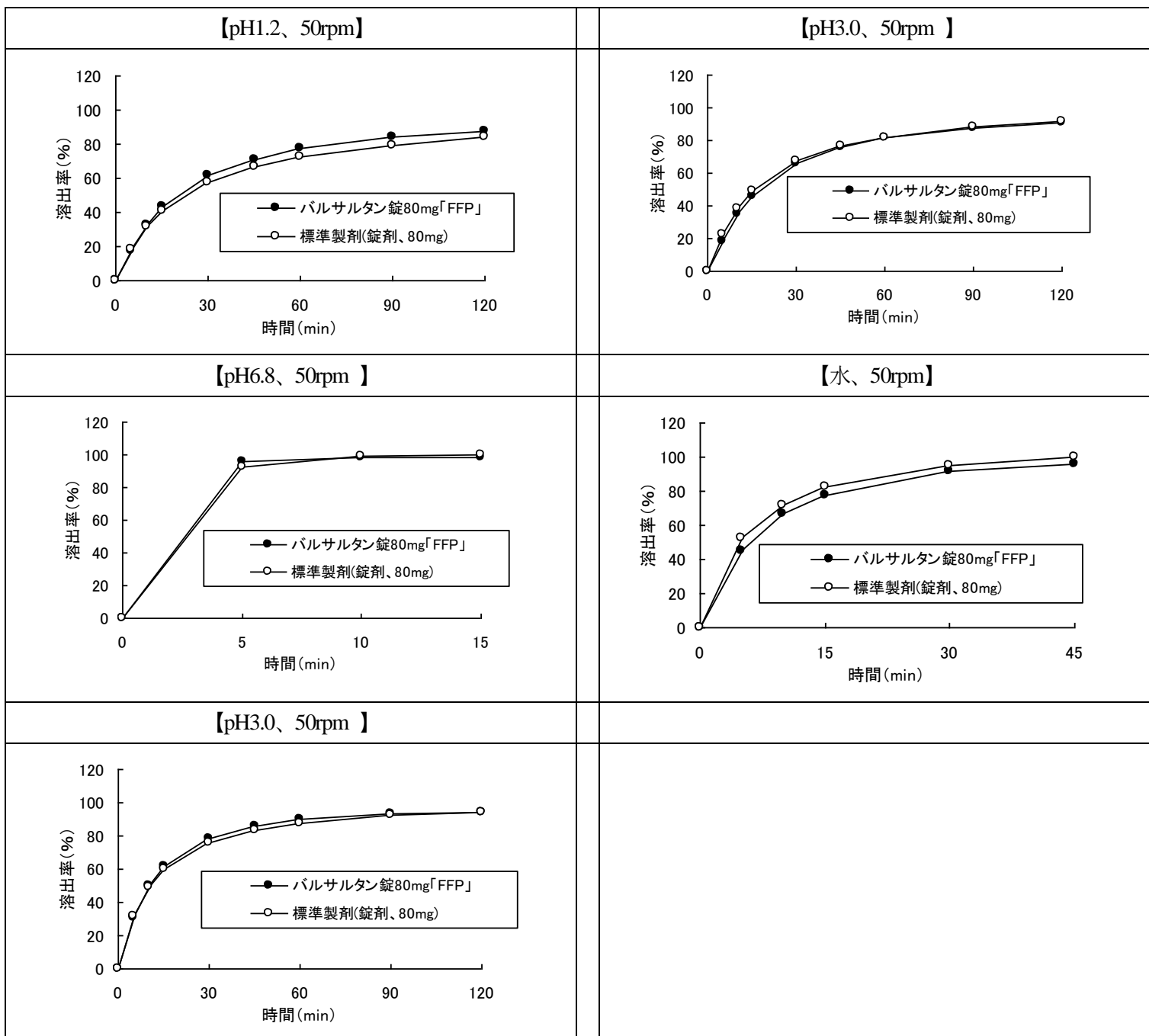
試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 \pm 15%の範囲にある。

水 (50rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 \pm 15%の範囲にあるか、又は f_2 関数の値が 42 以上である。

pH3.0 (100rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 \pm 15%の範囲にあるか、又は f_2 関数の値が 42 以上である



IV. 製剤に関する項目

表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			平均溶出率%			判定
回転数	試験液	採取時間	標準製剤 (錠剤、80mg)	バルサルタン錠 80mg「FFP」	差	
50rpm	pH1.2	15分	41.2	43.0	1.8	適合
		120分	83.9	87.3	3.4	
	pH3.0	10分	38.4	34.8	-3.6	適合
		60分	82.0	81.8	-0.2	
pH6.8	15分	100.4	98.5	-1.9	適合	
100rpm	水	5分	52.3	45.1	-7.2	適合
		15分	82.5	77.4	-5.1	
100rpm	pH3.0	5分	31.8	31.0	-0.8	適合
		45分	83.5	85.8	2.3	

結論

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインに従い、バルサルタン錠 80mg「FFP」と標準製剤の類似性を検討するために試験を行った結果、5 条件全てにおいて基準に適合したため、両製剤の溶出挙動は類似であると判断された。

●バルサルタン錠 160mg「FFP」の溶出挙動における類似性

(1)バルサルタン錠 160mg「FFP」の公的溶出規格への適合

バルサルタン錠 160mg「FFP」は、日本薬局方医薬品各条に定められた溶出規格（水 50rpm で 45 分間の溶出率は 75%以上）に適合していることが確認されている。

(2)バルサルタン錠 80mg「FFP」の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号

試験方法：溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験製剤：バルサルタン錠 160mg「FFP」

標準製剤：バルサルタン錠 160mg

試験法：溶出試験法（パドル法）

試験回数：12 ベッセル

試験液：900mL、37±0.5°C

pH1.2：日局「溶出試験第 1 液」

pH4.0：薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8：日局「溶出試験第 2 液」

測定方法：液体クロマトグラフィー

回転数：50 回転（pH1.2、pH4.0、pH6.8、水）、100 回転（pH4.0）

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の基準に従って類似性を判定した。

<判定基準>

pH1.2（50rpm）

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 53 以上である。

pH4.0（50rpm）

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。

pH6.8（50rpm）

IV. 製剤に関する項目

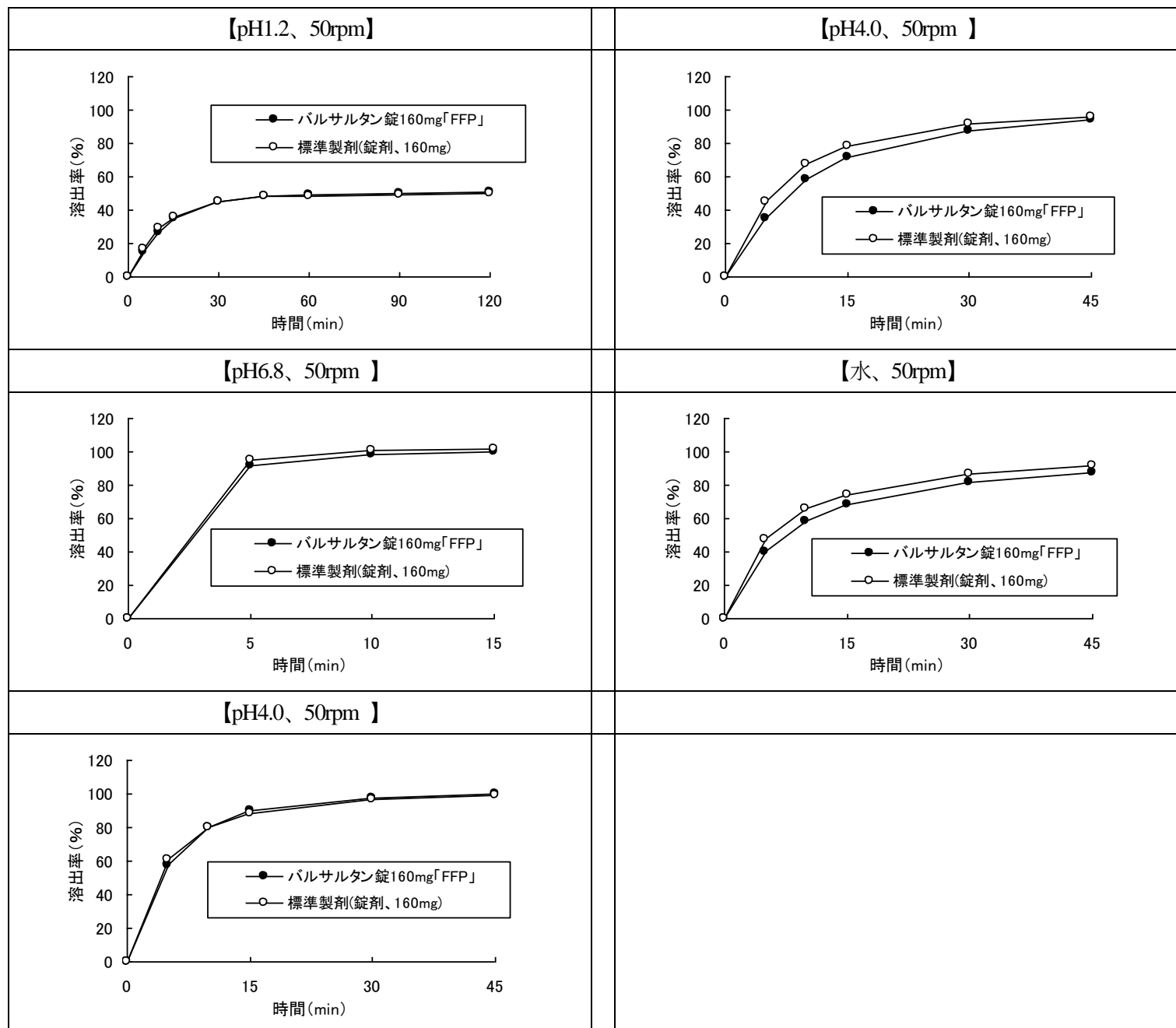
試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある。

水 (50rpm)

試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にあるか、又は f_2 関数の値が 42 以上である。

pH1.2 (100rpm)

試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある。



IV. 製剤に関する項目

表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			平均溶出率%			判定
回転数	試験液	採取時間	標準製剤 (錠剤、160mg)	バルサルタン錠 160mg「FFP」	差	
50rpm	pH1.2	10分	28.8	27.0	-1.8	適合
		120分	49.7	50.5	0.8	
	pH4.0	10分	67.4	58.1	-9.3	適合
		30分	91.3	87.3	-4.0	
pH6.8	15分	101.8	99.6	-2.2	適合	
100rpm	水	10分	65.8	58.4	-7.4	適合
		30分	86.8	81.3	-5.5	
100rpm	pH4.0	15分	88.1	89.9	1.8	適合

結論

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインに従い、バルサルタン錠 160mg「FFP」と標準製剤の類似性を検討するために試験を行った結果、5 条件全てにおいて基準に適合したため、両製剤の溶出挙動は類似であると判断された。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量法

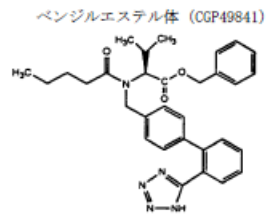
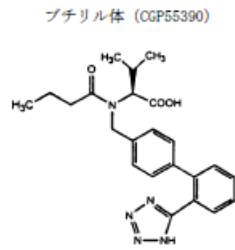
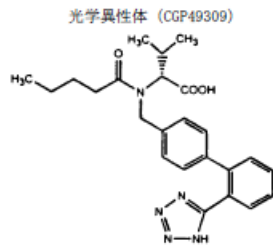
液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

IV. 製剤に関する項目

12. 混入する可能性のある夾雑物



13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報
該当しない

14. その他
該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

高血圧症

2. 用法及び用量

通常、成人にはバルサルタンとして40～80mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、1日160mgまで増量できる。

通常、6歳以上の小児には、バルサルタンとして、体重35kg未満の場合、20mgを、体重35kg以上の場合、40mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。ただし、1日最高用量は、体重35kg未満の場合、40mgとする。

<用法及び用量に関連する使用上の注意>

国内においては小児に対して、1日80mgを超える使用経験がない。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

phase	対象	有効性	安全性	薬物動態	概要
生物学的同等性試験	日本人健康成人男子	評価対象外	評価資料あり	評価資料あり	2剤2期クロスオーバー法

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

V. 治療に関する項目

(6) 治療的使用

- 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）
該当資料なし

- 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要
該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ロサルタンカリウム、カンデサルタンシレキセチルなど)
アンジオテンシン変換酵素阻害薬(エナラプリルマレイン酸塩など)

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

該当資料なし

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移、測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

「Ⅶ.薬物動態に関する項目 1.(3)臨床試験で確認された血中濃度」を参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

●バルサルタン錠 20mg 「FFP」の溶出挙動における類似性

バルサルタン錠 20mg 「FFP」と標準製剤の溶出挙動の類似性を検討するため、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正（1）後発医薬品の生物学的同等性ガイドライン及び（2）含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」（平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号）に従い溶出試験を実施した。

「Ⅳ.製剤に関する項目 7. 溶出性●バルサルタン錠 20mg 「FFP」の溶出挙動における類似性」を参照

●バルサルタン錠 40mg 「FFP」

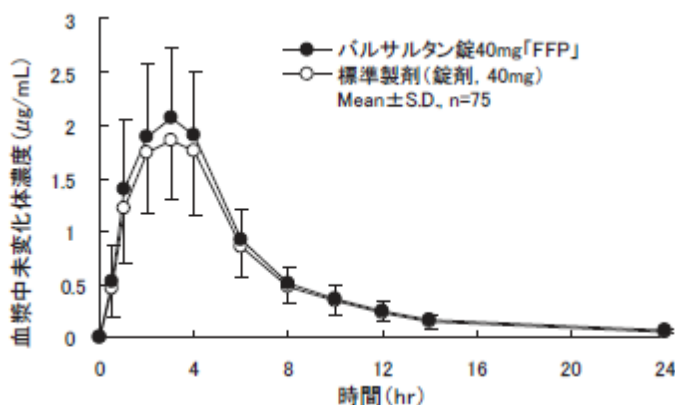
後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号

日本人健康成人男子 76 名に、バルサルタン錠 40mg 「FFP」及び標準製剤（錠剤、40mg）を、それぞれ 1 錠（バルサルタンとして 40mg）絶食時単回経口投与し、5 日間以上の休薬期間をおいた 2 剤 2 期クロスオーバー法で両製剤の血漿中バルサルタン未変化体濃度を比較検討した。なお、本臨床試験は「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」（薬食審査発第 1124004 号、平成 18 年 11 月 24 日）に従って計画した。

その結果、バルサルタンの平均血漿中濃度推移は以下に示したとおりで、血漿中濃度曲線下面積 AUC_{0-24} はバルサルタン錠 40mg 「FFP」が $13.41 \mu\text{g} \cdot \text{hr}/\text{mL}$ で、標準製剤が $12.33 \mu\text{g} \cdot \text{hr}/\text{mL}$ で平均最高血漿中濃度到達時間 T_{max} はそれぞれ 2.8 時間、2.8 時間で、平均最高血漿中濃度 C_{max} はそれぞれ $2.22 \mu\text{g}/\text{mL}$ 、 $2.04 \mu\text{g}/\text{mL}$ 、平均消失半減期 $t_{1/2}$ はそれぞれ 5.9 時間、5.9 時間と算出された。（被験者 1 例が第Ⅱ期投与前に中止したため、生物学的同等性の解析は 75 例で行った。）得られた薬物動態パラメータをもとに 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、0～24 時間までの血漿中濃度曲線下面積 AUC_{0-24} は $\log(1.0413) \sim \log(1.1383)$ 、 C_{max} は $\log(1.0314) \sim \log(1.1497)$ であり、後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインが要求する $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であった。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC_{0-24} ($\mu\text{g} \cdot \text{hr}/\text{mL}$)	C_{max} ($\mu\text{g}/\text{mL}$)	T_{max} (hr)	$t_{1/2}$ (hr)
バルサルタン錠40mg 「FFP」	13.41±3.89	2.22±0.65	2.80±0.90	5.90±0.80
標準製剤 (錠剤、40mg)	12.33±3.63	2.04±0.60	2.80±0.90	5.90±0.90

(Mean±S.D., n=75)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●バルサルタン錠 80mg 「FFP」

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号

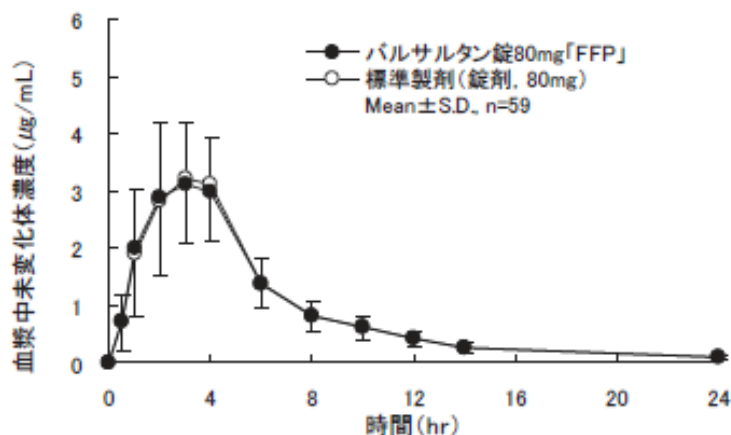
日本人健康成人男子 60 名に、バルサルタン錠 80mg 「FFP」及び標準製剤（錠剤、80mg）を、それぞれ 1 錠（バルサルタンとして 80mg）絶食時単回経口投与し、5 日間以上の休薬期間をおいた 2 剤 2 期クロスオーバー法で両製剤の血漿中バルサルタン未変化体濃度を比較検討した。なお、本臨床試験は「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」（薬食審査発第 1124004 号、平成 18 年 11 月 24 日）に従って計画した。

その結果、バルサルタンの平均血漿中濃度推移は以下に示したとおりで、血漿中濃度曲線下面積 AUC₀₋₂₄ はバルサルタン錠 80mg 「FFP」が 20.84μg・hr/mL で、標準製剤が 21.06μg・hr/mL で平均最高血漿中濃度到達時間 T_{max} はそれぞれ 3.0 時間、3.0 時間で、平均最高血漿中濃度 C_{max} はそれぞれ 3.44μg/mL、3.54μg/mL、平均消失半減期 t_{1/2} はそれぞれ 6.1 時間、6.1 時間と算出された。（被験者 1 例が第Ⅱ期投与前に治験参加の取り止めを申し出たため、生物学的同等性の解析は 59 例で行った。）

得られた薬物動態パラメータをもとに 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、0～24 時間までの血漿中濃度曲線下面積 AUC₀₋₂₄ は log(0.9131)～log(1.0725)、C_{max} は log(0.8689)～log(1.0599) であり、後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインが要求する log(0.80)～log(1.25)の範囲内であった。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₂₄ (μg・hr/mL)	C _{max} (μg/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
バルサルタン錠80mg 「FFP」	20.84±6.41	3.44±1.09	3.00±0.90	6.10±1.00
標準製剤 (錠剤、80mg)	21.06±6.74	3.54±1.08	3.00±0.90	6.10±0.80

(Mean ± S.D., n=59)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●バルサルタン錠 160mg 「FFP」

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号

日本人健康成人男子 18 名に、バルサルタン錠 160mg 「FFP」及び標準製剤（錠剤、160mg）を、それぞれ 1 錠（バルサルタンとして 160mg）絶食時単回経口投与し、5 日間以上の休薬期間をおいた 2 剤 2 期クロスオーバー法で両製剤の血漿中バルサルタン未変化体濃度を比較検討した。なお、本臨床試験は「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」（薬食審査発第 1124004 号、平成 18 年 11 月 24 日）に従って計画した。

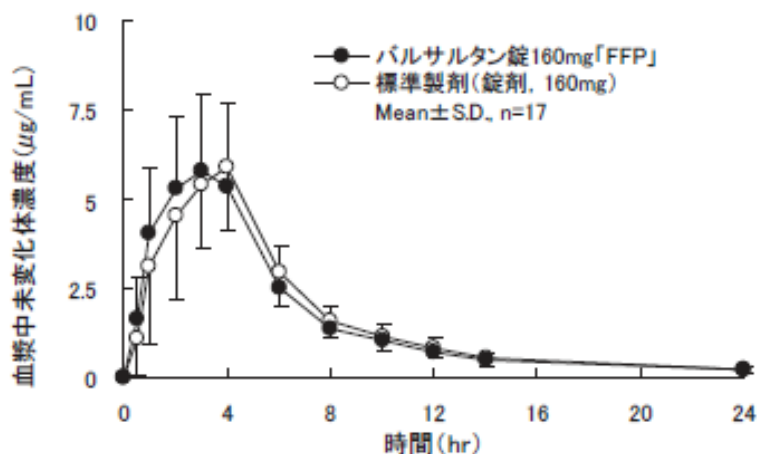
その結果、バルサルタンの平均血漿中濃度推移は以下に示したとおりで、血漿中濃度曲線下面積 AUC₀₋₂₄ はバルサルタン錠 160mg 「FFP」が 38.18 μg・hr/mL で、標準製剤が 39.07 μg・hr/mL で平均最高血漿中濃度到達時間 T_{max} はそれぞれ 2.4 時間、3.4 時間で、平均最高血漿中濃度 C_{max} はそれぞれ 6.55 μg/mL、6.41 μg/mL、平均消失半減期 t_{1/2} はそれぞれ 6.8 時間、6.2 時間と算出された。（被験者 1 例が解析対象から除外され、17 例で生物学的同等性試験を行った。）

得られた薬物動態パラメータをもとに 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、0～24 時間までの血漿中濃度曲線下面積 AUC₀₋₂₄ は log(0.8379)～log(1.1099)、C_{max} は log(0.8815)～log(1.1581) であり、後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインが要求する log(0.80)～log(1.25) の範囲内であった。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₂₄ (μg・hr/mL)	C _{max} (μg/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
バルサルタン錠160mg 「FFP」	38.18±13.91	6.55±1.99	2.40±1.10	6.80±1.80
標準製剤 (錠剤、160mg)	39.07±11.22	6.41±1.67	3.40±0.90	6.20±1.30

(Mean±S.D., n=17)

VII. 薬物動態に関する項目



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「VIII.安全性 (使用上の注意等) に関する項目 7.相互作用」を参照

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法該当資料なし

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

「VII.薬物動態に関する項目 1.(3)臨床試験で確認された血中濃度」を参照

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液—脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液—胎盤関門通過性

「VIII.安全性（使用上の注意等）に関する項目 10.妊婦、産婦、授乳婦等への投与」を参照

(3) 乳汁への移行性

「VIII.安全性（使用上の注意等）に関する項目 10.妊婦、産婦、授乳婦等への投与」を参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

(1) 腹膜透析

該当資料なし

(2) 血液透析

該当資料なし

(3) 直接血液灌流

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

禁忌（次の患者には投与しないこと）

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」を参照）
- (3) アリスキレンを投与中の糖尿病患者（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く）〔非致死性脳卒中、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧のリスク増加が報告されている。〕（「重要な基本的注意（3）」の項参照）

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

国内においては小児に対して、1日80mgを超える使用経験がない。

5. 慎重投与内容とその理由

次の患者には慎重に投与すること

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者（「重要な基本的注意（1）」の項参照）
- (2) 高カリウム血症の患者（「重要な基本的注意（2）」の項参照）
- (3) 重篤な腎機能障害のある患者〔腎機能障害を悪化させるおそれがあるため、血清クレアチニン値3.0mg/dL 以上の場合には、投与量を減らすなど慎重に投与すること。〕（「小児等への投与」の項参照）
- (4) 肝障害のある患者、特に胆汁性肝硬変及び胆汁うっ滞のある患者〔本剤は主に胆汁中に排泄されるため、これらの患者では血中濃度が上昇するおそれがあるため用量を減らすなど慎重に投与すること。外国において、軽度～中等度の肝障害患者でバルサルタンの血漿中濃度が、健康成人と比較して約2倍に上昇することが報告されている。〕
- (5) 脳血管障害のある患者〔過度の降圧が脳血流不全を引き起こし、病態を悪化させるおそれがある。〕
- (6) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

本剤の適用にあたっては、次の点に十分留意すること。

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者においては、腎血流量の減少や糸球体濾過圧の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。
- (2) 高カリウム血症の患者においては、高カリウム血症を増悪させるおそれがあるため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。
また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるため、血清カリウム値に注意すること。

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

- (3) アリスキレンを併用する場合、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。なお、eGFR が 60mL/min/1.73m² 未満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンとの併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。（「相互作用」の項参照）
- (4) 本剤の投与によって、初回投与後、一過性の急激な血圧低下（失神及び意識消失等を伴う）を起こすおそれがあるので、そのような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、特に次の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。
- 1)血液透析中の患者
2)利尿降圧剤投与中の患者〔特に重度のナトリウムないし体液量の減少した患者（まれに症候性の低血圧が生じることがある）〕
3)嚴重な減塩療法中の患者
- (5) 本剤を含むアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤投与中に肝炎等の重篤な肝障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど観察を十分にを行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- (6) 手術前 24 時間は投与しないことが望ましい。
- (7) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アリスキレン	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。なお、eGFR が 60mL/min/1.73m ² 未満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンとの併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。	併用によりレニン-アンジオテンシン系阻害作用が増強される可能性がある。
アンジオテンシン変換酵素阻害剤	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。	
カリウム保持性利尿剤 スピロラクトン トリウムテレン等 カリウム補給製剤 塩化カリウム	血清カリウム値が上昇することがあるので、血清カリウム濃度に注意する。	本剤のアルドステロン分泌抑制によりカリウム貯留作用が増強する可能性がある。 危険因子：腎機能障害
ドロスピレノン・エチニル	血清カリウム値が上昇するこ	本剤による血清カリウム値の上昇

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

エストラジオール	とがあるので、血清カリウム濃度に注意する。	とドロスピレノンの抗ミネラルコルチコイド作用によると考えられる。 危険因子：腎障害患者、血清カリウム値の高い患者
シクロスポリン		高カリウム血症の副作用が相互に増強されると考えられる。
非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDs)・COX-2 選択的阻害剤 インドメタシン等	本剤の降圧作用が減弱することがある。	NSAIDs・COX-2 選択的阻害剤の腎プロスタグランジン合成阻害作用により、本剤の降圧作用が減弱することがある。
	腎機能を悪化させるおそれがあるので、併用する場合には腎機能を十分に観察すること。	NSAIDs・COX-2 選択的阻害剤の腎プロスタグランジン合成阻害作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。 危険因子：高齢者
ビキサロマー	併用により、本剤の血中濃度が約30～40%に低下したとの報告がある。本剤の作用が減弱するおそれがあるので、併用する場合には十分に観察すること。	リン酸結合性ポリマーにより、同時に服用した場合、本剤の吸収を遅延あるいは減少させる可能性がある。
リチウム	血中リチウム濃度が上昇し、リチウム中毒を起こすことが報告されているので、血中リチウム濃度に注意すること。	本剤のナトリウム排泄作用により、リチウムの蓄積が起これると考えられている。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

(頻度不明)

- 1) 血管浮腫：顔面、口唇、咽頭、舌の腫脹等が症状としてあらわれることがあるので観察を十分に行うこと。
- 2) 肝炎
- 3) 腎不全
- 4) 高カリウム血症：重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。
- 5) ショック、失神、意識消失：ショック、血圧低下に伴う失神、意識消失があらわれることがあるので、観察を十分に行い、冷感、嘔吐、意識消失等があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。特に血液透析中、嚴重な減塩療法中、利尿降圧剤投与中の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

- 6) 無顆粒球症、白血球減少、血小板減少：無顆粒球症、白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。
- 7) 間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 8) 低血糖：低血糖があらわれることがある（糖尿病治療中の患者であらわれやすい）ので、観察を十分に行い、脱力感、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 9) 横紋筋融解症：筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 10) 中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、多形紅斑：中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 11) 天疱瘡、類天疱瘡：天疱瘡、類天疱瘡があらわれることがあるので、水疱、びらん等があらわれた場合には、皮膚科医と相談し、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

次のような症状又は異常があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、そう痒、蕁麻疹、紅斑、光線過敏症
精神神経系	めまい ^{注2)} 、頭痛、眠気、不眠
血液	白血球減少、好酸球増多、貧血
循環器	低血圧 ^{注2)} 、動悸、頻脈、心房細動
消化器	嘔気、腹痛、嘔吐、下痢、便秘、口渇、食欲不振
肝臓	AST(GOT) 上昇、ALT(GPT) 上昇、LDH 上昇、ALP 上昇、ビリルビン値上昇
呼吸器	咳嗽、咽頭炎
腎臓	血中尿酸値上昇、BUN 上昇、血清クレアチニン上昇
電解質	血清カリウム値上昇、低ナトリウム血症
その他	けん怠感、浮腫、CK(CPK) 上昇、胸痛、疲労感、しびれ、味覚異常、ほてり、血糖値上昇、血清コレステロール上昇、血清総蛋白減少、腰背部痛、脱力感、耳鳴、筋肉痛、関節痛、発熱

注1) このような場合には投与を中止すること。

注2) このような場合には減量、休薬するなど適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
発疹、蕁麻疹等の過敏症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

- (1) 高齢者では一般に過度の降圧は好ましくないとされている（脳梗塞等が起こるおそれがある）ので、低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。
- (2) 高齢者の薬物動態試験で、バルサルタンの血漿中濃度が非高齢者に比べて高くなることが認められている。
- (3) バルサルタン製剤の臨床試験では 65 歳以上の高齢者と 65 歳未満の非高齢者において本剤の効果、安全性に差は認められていない。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。また、投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。〔本剤を含むアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤並びにアンジオテンシン変換酵素阻害剤で、妊娠中期～末期に投与された患者に胎児・新生児死亡、羊水過少症、胎児・新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全、羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、脳、頭蓋顔面の奇形、肺の発育形成不全等があらわれたとの報告がある。また、海外で実施されたアンジオテンシン変換酵素阻害剤におけるレトロスペクティブな疫学調査で、妊娠初期にアンジオテンシン変換酵素阻害剤を投与された患者群において、胎児奇形の相対リスクは降圧剤が投与されていない患者群に比べ高かったとの報告がある。〕
- (2) 授乳中の婦人への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験（ラットの授乳期経口投与）の 3 mg/kg/日、乳汁中へ移行するとの報告がある。また、動物実験（ラットの周産期及び授乳期経口投与）の 600mg/kg/日、出生児の低体重及び生存率の低下が認められており、200mg/kg/日以上で外表分化の遅延が認められている。〕

11. 小児等への投与

- (1) 低出生体重児、新生児、乳児又は 6 歳未満の幼児に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。
- (2) 糸球体濾過量（GFR）が 30mL/min/1.73mm² 未満もしくは透析を受けている小児等に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない）。
- (3) 小児等の高血圧では腎機能異常を伴うことが多いため、腎機能及び血清リウム値を注意深く観察すること。特に、腎機能に影響を及ぼす状態（発熱、脱水）の患者に本剤を投与する場合や血清カリウム値を上昇させる可能性がある他の薬剤と併用する場合は注意すること。（「慎重投与」、「相互作用」の項参照）

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

- (1) 徴候・症状：本剤の過量投与により、著しい血圧低下が生じ、意識レベルの低下、循環虚脱に至るおそれがある。
- (2) 処置：通常、次のような処置を行う。

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1) 催吐及び活性炭投与

2) 著しい低血圧の場合には、患者を仰臥位にし、速やかに生理食塩液等の静脈注射など適切な処置を行う。

注意: バルサルタンの血漿タンパクとの結合率は93%以上であり、血液透析によって除去できない。

14. 適用上の注意

薬剤交付時: PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

該当資料なし

16. その他

該当資料なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）
- (2) 副次的薬理試験
該当資料なし
- (3) 安全性薬理試験
該当資料なし
- (4) その他の薬理試験
該当資料なし

2. 毒性試験

- (1) 単回投与毒性試験
該当資料なし
- (2) 反復投与毒性試験
該当資料なし
- (3) 生殖発生毒性試験
「VIII.安全性（使用上の注意等）に関する項 10.妊婦、産婦、授乳婦等への投与(1)」を参照
- (4) その他の特殊毒性
該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

気密容器、室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取り扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。

「Ⅷ.安全性（使用上の注意等）に関する項目、14.適用上の注意」を参照

(3) 調剤時の留意点について

特になし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

バルサルタン錠 20mg 「FFP」 PTP 包装: 140 錠 (14 錠×10)

バルサルタン錠 40mg 「FFP」 PTP 包装: 140 錠 (14 錠×10)

バルサルタン錠 80mg 「FFP」 PTP 包装: 100 錠 (10 錠×10)

140 錠 (14 錠×10)

バルサルタン錠 160mg 「FFP」 PTP 包装: 100 錠 (10 錠×10)

7. 容器の材質

【PTP 包装】

PTP 包装：ポリ塩化ビニル、アルミニウム

化粧箱：紙

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：ディオバン錠 20mg、ディオバン錠 40mg、ディオバン錠 80mg、ディオバン錠 160mg、
ディオバン OD 錠 20mg、ディオバン OD 錠 40mg、ディオバン OD 錠 80mg、ディオバン
OD 錠 160mg

X. 管理的事項に関する項目

同 効 薬：ロサルタンカリウム、カンデサルタンシレキセチルなど

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造・販売承認年月日及び承認番号

承認年月日：2014年2月14日

承認番号：

バルサルタン錠 20mg 「FFP」：22600AMX00453000

バルサルタン錠 40mg 「FFP」：22600AMX00454000

バルサルタン錠 80mg 「FFP」：22600AMX00455000

バルサルタン錠 160mg 「FFP」：22600AMX00456000

11. 薬価基準収載年月日

2014年6月20日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は、厚生労働省告示第97号(平成20年3月19日付)で定められた「投薬期間に上限が設けられている医薬品」には該当しない。

16. 各種コード

販売名	HOT番号(9桁)	厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	レセプト電算コード
バルサルタン錠20mg 「FFP」	123464002	2149041F1071	622346401
バルサルタン錠40mg 「FFP」	123465702	2149041F2078	622346501
バルサルタン錠80mg 「FFP」	123466402	2149041F3074	622346601

X. 管理的事項に関する項目

バルサルタン錠 160mg 「FFP」	123467102	2149041F4070	622346701
------------------------	-----------	--------------	-----------

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 安定性試験（共創未来ファーマ株式会社 社内資料）
- 2) 溶出試験（共創未来ファーマ株式会社 社内資料）
- 3) 生物学的同等性試験（共創未来ファーマ株式会社 社内資料）

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XⅢ. 備考

その他の関連資料
なし